

久喜市の教育が

目指す未来

「久喜市版未来の教室」を実現するため、これらの取り組みは、清久小学校での先行実施を皮切りに、今後市内34校すべてにおいて進められていきます。

ICTを活用した学びの環境には、教員の授業設計力の向上が必要不可欠です。しかし、通常の授業と異なり、個々のスキルに差が生じやすいため、教員間・学校間でのノウハウの共有が重要な鍵を握ることになります。

そのため、清久小学校の先行実施で得た知見を、学校内だけでなく市内の全教員と共有しようとして立ち上げられたのが、**市内34校すべての学校から教員1人ずつが参加する「久喜市版未来の教室研究委員会(以下委員会)」**です。

ICTを活用した清久小学校の授業を定期的に参観し、教員同士で授業の進め方についての改善点などを意見交換します。さらに東京大学高大接続研究開発センター・高大接続連携部門 COREF ユニット（以下東大 COREF）等の協力による学習支

援も実施されます。

ここで共有された知見は市内すべての学校にフィードバックされるため、常に質の高い学びの場が提供されます。

委員会は、メンバーが直接清久小学校に来ることができない場合でも、授業の参観や意見交換がオンラインで共有される仕組みも整えています。

委員会にご協力をいただいている、東大 COREF にお話を伺いました。



◀ 委員会の様子



東大 COREF 特任助教 齋藤 萌木 さん

ICTは手段にすぎない

21世紀社会では、知っていることを正しく再生できるだけでなく、学んだことを使って自分で考えるとともに、その考えを他者との対話をとおしてより良くしていけるスキルが求められます。私たちは、全国の自治体・学校等と連携しながら、そうした人材を育む授業づくりのお手伝いをしています。

委員会は、清久小学校の授業実践を題材に、先生方が多様な専門性を出し合って、子どもたちはいかに学ぶかを明らかにし、学びの事実に基づいて授業の成果や改善点を話し合い、みんなでより良い学習の支え方を考える「授業研究」を柱とした取り組みになっている点が素晴らしいと思います。

ICTを活用することを授業の目的と考えるのではなく、当たり前前にICTがある現代の環境において、子どもたちがどのようにしてこうしたスキルを伸ばしていけるかを先生方と一緒に検討していきたいと考えています。

自分自身が未来を創り出す当事者に

明治5年に発布さ

れた学制により、我が国の近代学校制度が始まりました。それから150年近く教育は子どもたちを教室

という学びの場を集め、専門家である優秀な教師が学習指導要領に基づいて、一律の内容を一齐に一方に付与するというのが、考え得る最も効果的な指導方法であり、それは大きな成果を上げてきました。

しかし今、グローバル化、急激な情報化の進展や技術革新は身近な生活を含めたあらゆる領域に影響を与えています。そのような中、子どもたちの成長を支える教育の在り方も新たな事態に直面しています。

従来の教師主導の一律・一齐・一方の授業から児童生徒一人一人がワクワクする気持ちを胸に未知の課題に挑戦し、柔軟な発想で解決を図る力を育てる場へと変わる必要に迫られています。

本市ではそのツールとして念願であった1人1台の端末、教室1台の大型提示装置が整備され、いよいよ本格的にGIGAスクール構想がスタートします。

未来を見通すことが困難な時代を生きる子どもたち。予測困難ならば、自分自身が未来を創り出す当事者に——。それを目指して「久喜市版未来の教室」があります。



久喜市教育長 梶沼 光夫 さん